

プロレタリア通信 29

★ 世界革命の旗の下 万国のプロレタリア団結せよ!

8.1 日韓批准阻止全国労働者学生総決起集会に向けて

★ 佐藤帝国主義内閣にまっ
こつから対決する打撃部隊
への前進を!!

◁ 現状勢と革命的左翼
の任務 ▷

1965.8.1

¥20.

共産主義者同盟

スローガン

- 迫り来る世界危機を日本革命へ!
- 日本革命をアジア革命の勝利と世界革命の突破口とせよ!
- 労働者共産党を直ちに組織せよ!
- この方針の下、共産主義者同盟に総結集せよ!

日本帝国主義の侵略と抑圧の政策＝日韓批准と労働者学生の実力で粉碎せよ!

佐藤帝国主義内閣を打倒せよ!

目次

- 1 本集会の苦心義と任務
 - ① 本集会の苦心義と任務
 - ② 本集会の苦心義と任務
 - ③ 本集会の苦心義と任務
 - ④ 本集会の苦心義と任務
 - ⑤ 本集会の苦心義と任務
 - ⑥ 本集会の苦心義と任務
 - ⑦ 本集会の苦心義と任務
 - ⑧ 本集会の苦心義と任務
 - ⑨ 本集会の苦心義と任務
 - ⑩ 本集会の苦心義と任務
 - ⑪ 本集会の苦心義と任務
 - ⑫ 本集会の苦心義と任務
 - ⑬ 本集会の苦心義と任務
 - ⑭ 本集会の苦心義と任務
 - ⑮ 本集会の苦心義と任務
 - ⑯ 本集会の苦心義と任務
 - ⑰ 本集会の苦心義と任務
 - ⑱ 本集会の苦心義と任務
 - ⑲ 本集会の苦心義と任務
 - ⑳ 本集会の苦心義と任務
 - ㉑ 本集会の苦心義と任務
 - ㉒ 本集会の苦心義と任務
 - ㉓ 本集会の苦心義と任務
 - ㉔ 本集会の苦心義と任務
 - ㉕ 本集会の苦心義と任務
 - ㉖ 本集会の苦心義と任務
 - ㉗ 本集会の苦心義と任務
 - ㉘ 本集会の苦心義と任務
 - ㉙ 本集会の苦心義と任務
 - ㉚ 本集会の苦心義と任務
 - ㉛ 本集会の苦心義と任務
 - ㉜ 本集会の苦心義と任務
 - ㉝ 本集会の苦心義と任務
 - ㉞ 本集会の苦心義と任務
 - ㉟ 本集会の苦心義と任務
 - ㊱ 本集会の苦心義と任務
 - ㊲ 本集会の苦心義と任務
 - ㊳ 本集会の苦心義と任務
 - ㊴ 本集会の苦心義と任務
 - ㊵ 本集会の苦心義と任務
 - ㊶ 本集会の苦心義と任務
 - ㊷ 本集会の苦心義と任務
 - ㊸ 本集会の苦心義と任務
 - ㊹ 本集会の苦心義と任務
 - ㊺ 本集会の苦心義と任務

④我々の統一行動・その打撃力への転化(参院選)
 ⑤学生戦線の前進
 ⑥我々の課題・打撃力への飛躍

3 動揺する世界体制―情勢1―
 ①現状を規定するもの―戦後体制崩壊の開始
 ②戦後階級決戦の敗北と戦後体制の成立
 ③反共軍事体制とアメリカの主導権
 ④ヨーロッパ設備投資ブームの要因と結果
 ⑤世界資本主義動揺の契機
 ⑥国際通貨体制の危機

4 日本資本主義の危機の成熟―情勢2―
 ①世界資本主義体制崩壊の危機と不可避の階級決戦
 ②高度成長と可能にした要因
 ③その、日本資本主義を困難にする要因への転化
 ④資本家の結束と合理化攻勢の開始
 ⑤米帝東南アジア支配体制と内部から涌強する日本帝国主義
 ⑥攻勢の中心・日韓会談
 ⑦日共反米路線の犯罪的役割

5 日本階級闘争の転機―情勢3―
 ①今春にみられる日韓協定体制の動揺
 ②四九年敗北による議院民主主義的妥協体制の成立
 ③五〇年代の日本資本主義と階級対立
 ④戦後世界体制の動揺と階級的激突の時代の開始
 ⑤当面する任務

6 当面する任務
 ①日本労働運動の現状と日韓批准斗争
 ②日帝攻勢の焦点と日韓批准
 ③日韓批准斗争と戦時的労働運動の任務
 ④全国的打撃部隊・学生運動の任務
 ⑤労働運動の打撃部隊めざして批准斗争を闘おう!

② 社会に決する戦時的労働運動の指導部へ!

1

本集会の意義と任務

日韓批准阻止全国労働者学生総決起集会に結集した労働者学生諸君が、

本集会は、日本帝国主義のアジア侵略と日韓会談批准の策動を、革命的左翼の総力を結集して粉碎するために開かれた。本集会の中心の任務は、佐藤政府の侵略と抑圧の政策の中心環に日韓会談の批准が目前の臨時口会を強行されることとしている時、これとまっぴらから対決し粉碎する我々の打撃力をうち固めることである。日本の労働者階級とアジア数億人民に資する苦しみとをこらすこの攻勢に、自らの打撃力をこめて闘いぬく方針と体制を確立することである。

① そのためには、我々は過去一年の闘いを総括し、支配階級の厳しい圧制とこれに反動する労働者階級の闘いの発展の中から、日本における階級斗争を階級の激しい対立の時代に突入しつづけることをはっきりと確認して、決意を新たに戦列をかためねばならない。本集会の中心の任務は、我々革命的左翼が、日本の「社会」に於ける「三潮流」的意図と訣別し、自らが労働者階級の政治指導部として登場する道を確立してゆくことである。

② 何故なら、過去一年の原潜・香斗・日韓・ベトナム斗争は、支配階級の圧制が日毎に激しくなり先制攻勢が加えられていくに等しい。これをいぬかえす強力な闘いは未だ組織されてはいない。その責任は勿論社会両党の敗北路線に

かかぬるものではあるが、何よりとまず、我々は自らにその
向を定めて、前進しなければならぬ。

昨年八・二集會に結集し、今年一・二三、二四集會を経た我
々は、はや、一般的思想宣伝、意志表示に満足するのでは
なく、自ら攻勢を打開する打撃力を、公然と全労働者階
級の前に登場しなければならぬ。

4 革命的左翼に問われているこの課題は、さらに、現下の
階級状況を分析し、戦略的展望と当面の戦術を明確にする
ことをめざすにはありえない。本集會のオースの任務は、
鋭い状況分析によって、これを明らかにして行くことである。
春斗への依頼回答と大量処分、予想される合理化首切りの嵐
これこそ深まりゆく不況の中で苦悶する日本資本主義が、労
働者階級の犠牲の上に延命しようとする策動である。とし
てこの日本資本主義の危機は、海外に市場圏を構築する
ことなしには破綻をまぬがぬ危機である。

5 こうした日本資本主義の苦悶の根源は、ドル・ポンド危
機と市場競争の激化、米仏対立の深化とベトナムをめ
ぐる軍事的政治的葛藤に中・西両面を深くまきこまれている
ない世界危機の成熟である。この世界危機の成熟は、オース
大戦後の冷戦体制という国際的政治軍事編成を破壊させ、今
や、各々の議會社民主義を通じた階級の妥協体制を動
揺させつゝあり、ここに新たな世界革命の時代を準備しつ
つある。そして、市場なく、金融力の脆弱な日本資本主義こそ
世界危機の焦点であり、ここに階級の決戦は避けられない。
6 従って新たな世界危機は、戦争の危機ではなく革命の危
機であることをはっきりと認識しなければならぬ。そ

らぬが、それには先ず、侵略と抑圧のオース一步日韓会談の
批准に反対し、これを粉砕する斗いに、単なる意志表示に止
らない打撃力として自ら登場することである。アメリカのベ
トナム侵略がハノイ爆撃にまで迫ろうとしている中で、日韓
会談粉砕の斗いは一足重要となつてくる。この斗争を「平和
のための血の〇〇万署名」にすりかえるのではなく、政府を
震撼させるべく、今こそ総力を投入しよう。

10 六月二十二日、我々は本調印の策動に対し、多くの労働
者を出しながらと斗いぬいた。この都連の打撃力は急
遽に労働者階級の打撃力へと発展させられなければならない。我
々はそのために全力を注ごう。既に南朝鮮では二の日以系、
決死のオースが連日続けられている。我々は彼らと固く連帯し
前進していかなければならぬ。本集會に結集した我々は全日津
々浦々に、脈場から学園から、目前の批准をうち砕く打撃力
をうちかため結集してゆこうではないか。

2

総括

妥協体制の動搖と 不可欠な我々の打撃力への発展

1 日韓批准阻止斗争を目前にして、しかるこの斗いを侵略
と抑圧の全過程を闘いぬくオース一步として位置づけること
過去一年の闘いを総括し、革命的左翼の眞面目にしている課題と
明らかにするには極めて重要である。

昨年八・二大集會は、四・一七への昂揚と、新たな階級
斗争の胎動とその挫折をうけて、革命的左翼の大衆的結

して日本労働者階級の勝利は、アジアの自由と解放を求める
闘いの勝利に転化し、それによつて世界革命の突破口となる
だろう。だが我々の敗北は日本帝国主義の狂暴な侵略を許し
アジアの人民と全世界の解放斗争に多大の犠牲を強いるであ
らう。

7 来るべき階級決戦に至る斗いは既に開始されてい
る。今
次春斗は労働協調の時代に終焉を告げようとしている。日
韓会談をオース一步とする侵略と抑圧の攻撃は開始された。
迫りくる危機に燃んで、侵略と抑圧によるスルジョアジ
延命を許すか、それとも社会主義日本革命の勝利に導くか
として、我々は、我々が今から総力を結集して新たな革命
労働者階級の建設に前進することめざすにはありえない。本集會
の次の任務はこの革命党建設の課題に展望を与えることであ
る。

8 このことは総括社社会党の敗北路線をのりこえる斗いと
同時に、日本共産党とその民族路線を粉砕する斗いが旧来
にともして重要であることと意味している。彼らの妥協体制
打破論は、民族スルジョアジを手を結ばばアメリカ帝国主
義を追い出せるといふ安易な幻想であると同時に、その民主
主義革命路線によって、来るべき階級決戦の中で反革命とし
てあらわれ、社会主義革命斗争と対決することを見通しては
ならない。

9 だがこうした一切の課題は、我々が何よりと先ず、侵略
と抑圧の攻撃に反対し、自ら労働者階級の先頭に立って
支那階級を震撼させる斗いにつくことめざすにはありえない。
我々は合理化の嵐に立ち向い来る春斗への態勢を固めねばな

乗を始めてからとつたものであつた。その内容形式において
幾多の欠陥を含んではいたが、この大阪集會の最大の意義は
革命的左翼がここに、統一行動へのオース一步をみださうとし
たことである。だがこの統一行動は、未だ充分には前進しな
かつたところに、我々の克服すべき課題も存在しているとい
わねばならぬ。

2 オースに総括しなければならぬのは原素斗争である。三
送池田内閣は八月二十八日突然、米原素力潜水艦寄港を
認め、方針を明らかにした。アジア侵略をめぐり日本帝国主義
は、アメリカの世界戦略と一体にならばアジアに自ら責任を負
うため、この攻撃を加えてきたのである。反戦の斗いは九月
三日に始り、全日に燃えひろがった。9・27、11・7の横須
賀斗争は安眠以後まれにみる反政府斗争となり、しかも戦
労働者階級の産りとみんみん力斗争がからとられたことは、大
きく評価されねばならない。在野保においてと入港に反対す
る原素斗争が展開され、さらに全日津々の脈場学園で公然と反政
府斗争がからとられていった。

3 二の原素斗争は、四・一七への労働運動の胎動が、支配
階級の侵略と抑圧の政治功罪にも大衆的昂揚をともて反
映する時代の序曲となり、又、その部隊を本元を生み出した
大きな意義があつた。学生運動の戦斗化は勿論のこと、脈場
から大衆的にアピールし、幹部をつきあけてゆけば、オース一
歩を押し込み原素斗争を全く可能である。ことを我々は知
つたのである。

4 オースに、我々は厳しかった春斗としっかりとして総括しなけ
ればならない。今次春斗は何よりと支配階級のかつてな

2 ヌニ次大戦は、勝利したアメリカ、イギリス帝國主義とスターリンのソ連による世界の分割で終った。そしてこの二つの帝國主義者と「社会主義」勢力の国際的な妥協は、フランス、イタリーなどの西ヨーロッパ及びポーランド、ハンカリーなどの東ヨーロッパ等における階級協調体制を生み出したが、戦後の深刻な経済危機はこの二つの階級協調体制を許さず、西ヨーロッパ及び日本における階級決戦を不可避にした。戦後三〇年続いたアメリカを中心とする資本主義とソソクとソ連・中ソを中心とする社会主義とソソクの軍事的対立という世界体制は、この資本主義諸國の戦後階級決戦におけるソソクとソソクの敗北と東ヨーロッパ諸國のソソクらの「警察的・行政的」社会主義化の上に築かれたものである。

3 ヌニ次大戦後の世界資本主義は、アメリカがその圧倒的生産力と背景として、資本主義ソソクの「社会主義」ソソクに対する軍事的政治的対立、即ち「反共軍事体制」のイニシアチブを握ることによって、再建され、編成された。即ち、大戦直後のマニマル援助を始めとする巨額のドル資金援助こそヨーロッパ及び日本資本主義の経済的再建を可能ならしめたのであり、朝鮮戦争はアメリカの政治的軍事的指導権を資本主義世界のすみずみまでゆきわたらせた。

4 だが元来自給自足的なアメリカ資本主義は、つぎることろ世界資本主義の分業体制の中心となることはできず、ドル資金を供給して、ヨーロッパ及び日本資本主義の発展を外部から助けるに止った。そして朝鮮戦争の過程で生産力と金・外貨の準備をいぢぢるしく強化したヨーロッパ諸國は

ヨーロッパ諸國相互の分業体制を強化し、あわせて、ポソク地域諸國をはじめとする西ヨーロッパの古くからの植民地諸國と、原料・食料の供給國として抱き込みつつ、世界資本主義の最大の貿易の中心を形成し五〇年代に熱狂的な設備投資ブームを展開した。大戦中に開発された、二水までアメリカ資本主義が独占してきた高度な生産技術が、この過程で一挙にヨーロッパ大陸と日本を開花し、アメリカは一九五〇年代末に、既に世界資本主義における生産力の圧倒的優位を失った。

5 このよつむ五〇年代の発展は、戦後世界資本主義体制を根本的に動揺させる契機を形づくった。即ち、大戦直後に世界資本主義を経済的破綻から救い五〇年代の急激な発展と拡大をもたらしたアメリカの散布したドルは今や、アメリカの商品輸出の停滞によつてアメリカへ環流することなく、ヨーロッパ諸國の金外貨準備とを吸収しおこしまいにここに、かつては、金と同一視されたドルの価値は著るしく低下し、一九六〇年秋の劇的な金流出をへて「国際通貨」の動揺は決定的段階をなわち「国際通貨体制」そのものの危機へと発展した。更に西ヨーロッパ諸國及び日本の重工業設備投資の一段落は、独占的企業をして、国内市場の分割戦から、世界市場の激烈な競争戦へとむかひしめ、ドル危機を一及促進した。又、逆にドル危機の深化は、アメリカのドル防衛の強化から世界市場に下況圧力をかけることによつて、世界市場の競争戦を二層激化している。

6 こうして、資本主義諸國の商品生産関係そのものを分断する「国際通貨体制崩壊」の危機が成熟しつつある。そして

帝國主義烈強の関心は、今や、世界資本主義体制の崩壊を（ドル防衛、関税一括引下等）の「国際協調」によつていかに

7 こうして世界資本主義の政治体制は、今や経済的矛盾を根本的要因として、その崩壊をさけられぬものとして、いる。各國の帝國主義スソクは、この世界資本主義体制の崩壊の危機に世界危機をのりきるための愚案を閉巻した。だがこれは、特に世界危機の困難が集中する「世界危機の焦点」において、ソソクとソソクに対する死の苦悶を強要するのであるが故に、階級決戦を不可避にするだろう。そして他ならぬ日本資本主義は、世界体制崩壊の危機が集中する「世界危機」の中心であり、従つて世界危機の成熟に伴う階級決戦をまっさかにならざるを得ず、深刻に経験

日本資本主義の危機の成熟

情報 2

7 戦後世界資本主義体制の崩壊の開始は、まずオ一に日本資本主義を深刻な経済的困難におとしおこしている。

資本主義を深刻な経済的困難におとしおこしている。トソクラインとレッドパーシによる戦後革命の粉砕で政治的基礎を確立した日本資本主義は、朝鮮動乱の特需ブームで息をふさかえした。さらに昭和三十二年の神武景気以来、急速な重工業資本蓄積をとげたのであるが、此様な世界でと類をみない程の急激な拡張・高度成長を可能ならしめたものは何であつたか。

世界的拡張と、未だヨーロッパ生産力が低いという有利な国際環境によつて、アメリカ及び東南アジア諸國への輸出が伸びたことであり、オニに輸出をしまわゆる輸入を支えた特需収入及び資本輸入という外貨の流入であり、そして、オニに、これらの至者関係の背後にある、日本とアメリカの反共軍事戦略体制の中での政治的相互依存関係である。即ち日本資本主義は、世界資本主義体制の中にあつて、ヨーロッパの如く独自の市場圏をきつておこさず、ヨーロッパ資本主義の発展



とアメリカからのドル資金散布に外的に依存して、その急速な重工業の発展をとりてきたのである。

2 だが今や、資本主義世界の戦後体制の動搖と共に日本資本主義の発展を促してきた全ての要因が、遂に日本資本主義を困難に陥らし入れる要因へと転化している。

ヨーロッパ資本主義の重工業生産力の確立は、世界市場の激烈な競争をきたらし、アメリカのドル防衛の強化は、外国貿易に大きく依存してきた日本資本主義に最も深刻な金融的圧力をかけ、国際政治におけるアメリカ主導権の動搖は、国際政治への新たな血なまぐさい対応を日本資本家政府に迫っている。

山陽特殊鋼の倒産と山一証券の破綻を含む昨年までのさびしい経済状況は、まさにこのような世界資本主義の戦後体制の危機によつて、神武景氣以来の重工業設備投資の過程が終り、さびしい国際資本の生死をかけた斗争のなかに突入したことを意味している。日本資本主義がその胎内に形成した重工業生産力の巨大さは、それだけ日本資本主義の市場問題に死活の重要性を手立てしている。日本資本家階級は今や二の国際的競争に耐えぬために、一切の小スルジョアの理想主義(中立外交と議会制民主主義の幻想)を排して、彼ら本来の姿を露すにあらわしはじめた。

3 そのオ一の攻撃は、劣弱者階級に対する低賃金と合理化による搾取の強化、首切りを伴う弱小企業の整理である。今春斗における低賃金政策への資本家の強固な結束と前田発言にみられる合理化攻勢の開始は、このことを端的に示している。

4 だが東南アジア市場の確保と、アメリカとの経済的結合の強化は、動搖しつつあるアメリカの反共軍事情報、とくに、激化する東南アジア支配体制を内部から崩壊させることをめざしてはありえない。こうして東南アジアにおけるアメリカの侵略政策に加盟し、その支配体制を強化することは日本資本主義の延命にとつて不可欠の道である。佐藤政府のアメリカ原潜寄港承認、戦火を拡大するベトナム侵略政策への公然たる支持と軍需物資供給を含む加盟は、日本支配階級が、すでにこの方向に歩みはじめたことを示している。

5 世界危機をスルジョアの延命しようとする日本劣弱者階級への搾取の強化と東南アジアへの侵入は、日本劣弱者階級への政治的抑圧へむけて支配階級をかりたてざるをえない。そしてこの侵略と抑圧の本格的攻撃の突破口を、彼らは日韓条約の調印批准として設定した。それゆえ、日本帝国主義のスルジョアの延命をはかる侵略と抑圧の攻取に對する劣弱者階級の闘いは、まずオ一に、この日韓批准を粉砕する闘いにかかっている。

6 日韓斗争とベトナム侵略反対斗争の力を「安保放棄・民族民主統一戦線」をめぐり反米斗争へ結びつけようとする日本共産党は日韓会談と佐藤政府のベトナム侵略加担を、

アメリカの対社会主義スロツフへの戦争政策に對する親米資本家の従属としてしこみ。二がでさず、従つて、世界危機の中で延命しようとする日帝の侵略と抑圧の攻取をみることでできない。このような反米民族主義は、支配階級の侵略と抑圧の前に、日本をロレタリアートに武装することを妨げ、風眼を強いるのであつて、我々は断じてこのような反米民族主義による闘いの妨害を許してはならない。

このような日本資本家階級の侵略と抑圧の攻取に對決しえない一従つて世界危機に對する日本帝国主義の「孤立化」の延命を阻止しえない日共路線は、中共の反米民族路線に基くものである。アジアアフリカ諸国を始めとして、フランス、日本等の先進帝国主義国まで「中間地帯」として反米統一戦線にくみこむことを主張する中共路線の客観的基礎は何か、それゆえに戦後世界体制の崩壊の開始である。即ち、国際政治におけるアメリカの主導権の動搖を、戦後体制の崩壊に對つて世界危機の発端は、後進国ではなく、先進国の階級対立の激化——と捉えずに、アメリカ帝国主義の「孤立化」を捉え、反米統一戦線に日本を含む各国の一切の階級斗争を逆風せしめる。先進国階級斗争(日本)の激化の中に革命的危機を準備する世界危機に對し、まさに述べてこの階級斗争を反米統一戦線に結びつけようとする中共路線が、世界危機に對し、對決する路線でないことは、あえて日本共産党の犯罪的役割を引合ひに出すまでもなく、全く明らかである。

5

日本階級斗争の転換——情勢3——階級的激突の時代の開始

7 四月下旬官公労労働者不示した巨大な力量、くすぶり続けた民間暴動、そして六月の対官公労大量処分——これらを引き起した階級状況の転換は、向より資本攻撃の全面的激化のさざしを示している。そして二山は従来の香斗(日本階級斗争)を買いてきた資本家階級と総評民同の取引(階級協調体制)の経済的基礎が動搖し始めたことを物語る。即ち香斗に對する資本家階級の徹底した包圍回答は、資本家階級が劣弱者階級に對して一定の賃上げを認める経済的余裕を失いつつあることに他ならない。

2 四月五〇年の百万首切り・レッドパージは、戦後危機をスルジョアの処理し、資本主義的再建コースを軌道にのせるために、資本家階級がGHQのバックの下にしかけた決戦であつた。日本劣弱者階級は、二山に致命的な敗北を喫したが、二山は全ての劣弱者組織、政党をせん滅し尽さず、全面敗北と見限り、共産党労働者を中心とする一大突出部隊を一掃され、基幹部隊が後退を余儀なくされた「半敗北」であつた。この「敗北」を基礎として成立したものが「議会民主主義的労働体制」に他ならない。それは、スルジョアが「ロレタリアート」に對して議会主義的改良を与えると共に、スロレタリアートと社会民主主義者によつて、その闘力を議会的改良主義と組合主義的労働運動の内部におし止められることによつて妥協を強いられた体制である。そして「

大なる飛躍と可能とするであらう。此れは本集會に結果した全
日産生階級の重んぶ任務である。

5. 日韓批准阻日本支配階級の攻撃の急点であると共に、そ
のことによつて日本労働運動の当面の最大の環となつた。
このことは既成労働運動指導部の動向にはつきりとみるこ
とができる。昨年六月以前に、政治斗争はやらぬととうとぶ
いていた総評太田議長は「政治斗争に重点をおく」といい、
社会党佐々木委員長は「日韓批准阻止共闘」を作つて批准斗
争にとり組むと云つてゐる。又此れに歩調を合わせたように
各産業界が日韓ベトナム斗争を一樣に強調してゐるのであ
る。春斗以来四月二六、五一九、六九と斗つてきた日本労働運動
はこの九月の三月月間、全日にわたつて批准斗争で猛烈動
である。日韓批准にいかに対決するか——此れこそ、全同
題の結節点になつてゐる。

この時にあつて我々の任務は極度に重要である。
昨年四・一七以来の日本労働運動の胎動を基礎にして、社共と
異なる戦斗的左翼は全日に広範に発展すると共に労働運動の市
民権を得つつある。今やこの部隊は実践的戦斗部隊に、革命
的打農部隊へと高められぬはならない。批准斗争は、戦斗的
左翼が転機段階の斗争部隊に、更には全日的勢力に成長して
いく決定的な環である。戦斗的左翼は二の支配階級の攻撃に
対決しつゝ階級的力量に自らを昂め、階級斗争の渦中に公然
と登場することと自己の目標とせねばならぬ。それこそ日本
階級斗争の現実が我々に要請してゐるのである。日韓批准
斗争から春斗斗争、そして春斗において、戦斗的左翼は全
日的打農部隊へと発展させること——此れこそ我々の任務で

ある。

6. このことは戦斗的左翼が、社共に対決する労働運動の政
治指導部に成長する任務を、具體的目標としてかかはつ
る時点に到達してゐることを示すのである。

社共内党の限界が、大衆斗争を議会に對する左力段階に止め
る点にあることは明らかである。社共と真正面から対決し、
それにかゝる指導部を建設するのは、我々の革命斗争独自の
打農をよつて、社共の議会的改良斗争の限界を突破する以外
にはない。

参院選都議選における社共の伸張は、我々が彼らにかゝる現
实的勢力に成長してゐない結果を鋭く示してゐる。

我々は目前に迫つた日韓批准斗争を、戦斗的左翼を労働運動
の打農部隊に成長させていく当面の環として位置づけ、此れ
に総力をあけて準備していく必要がある。

日韓批准斗争の一切の帰つは——単なる一般的な反対の意
志表示で終るか否かは——挙げて我々にかかつてゐる。

日本階級斗争の眞の担い手としての責
任と自覚をよつて、日韓批准阻止斗争
に向つて総進撃を開始せよ!!

ろロレタリア通信ガニ九号ノ一九六五・八・一
共産主義者同盟政治局ノ羊二〇（但しマル戦カ
ろクの場合口無料）ノ連絡先・黎明社・東京都
文京区本郷一―八一―一八・TEL (811) 三五六一